



令和元年度

南小だより

川越市立霞ヶ関南小学校

学校だより 第3号

□令和元年6月3日

□児童数：224名

(R元.5.6 現在)

□校長：武蔵 昌行

【学校教育目標】○やる気 ○思いやり ○げん気

～子供たち一人一人が、学ぶ楽しさ・生きる喜びを実感できる学校～

大型連休となりましたGWや、様々な行事が続きました5月が終わり、今週から6月になりました。学校公開日には、9割近い保護者の皆様にご参観いただきました。休業日(土曜日)に実施させていただきました成果を感じました。初めての試み「学校説明会」にも、多くのご参加をいただきました。皆様の教育活動への関心の高さを改めて実感するとともに、込められている期待の重さを感じました。今後も子供たち一人一人が学ぶ楽しさ・生きる喜びを実感できる学校を目指し取り組んでまいります。引き続き、ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

「聞く」と「聴く」の違いとは…

明日(4日)のお話朝会では、昨年度同様、「『聴く』と『聞く』の違い」について話す予定です。昨年度の学校だよりでもご紹介しましたが、各ご家庭でも是非意識して取り組んでいただければと思います、再度取り上げさせていただきます。

【「きくこと」の大切さ】

○学力を上げるためには、「話をきける子を育てること」が効果的である。

- ・「聞く力の高い子」と「学力」は比例している。「話は聞けるけれど、学力は低い」という実態は殆ど見られない。

【「きく」は『聞く』? それとも『聴く』?】

○「類語国語辞典(角川書店)」によると、それぞれ次のような意味が示されている。

A 聞く：音や声を耳に感じ、認めること。

B 聴く：聞こえるものの内容を理解しようと思って進んできくこと。 ※要旨

- ・「きく」という漢字は、話を「きく場面」「きく目的」によって使い分けられている。

【「話をきける子」の場合は、どちらの漢字を使うべきなのか?】

○「聴」の漢字を使うべきである。

- ・これからの社会を生き抜いていくためには、「話を聴ける」スキルを高めていくことが求められている。話を音として感じるだけではなく、話している内容を理解しようとする力を育てていくことが、学力向上だけでなく、他者と積極的に関わる力(=コミュニケーション力)を高めることにもつながる。
- ・授業中の先生の話、友達との会話、家族団らんの場などの「話を聴く」場面の中で、話を聞き流すのではなく、相手が伝えようとしていることを理解しようとする習慣を身につけさせていきたい。

【『聴』の字のつくり注目!!】

○「聴」の漢字を分解すると、「耳・十・目・心」の4つに分けられる。

- ・「聴くとは、音を耳で感じ、目と心(目+心)で理解すること」なのではないか。
- ・この力を身につけることにより、学力だけでなく、「相手を思いやる心」も育つのではないか。

川越市PTA連合会が提唱しています「スマイルチャレンジ」の1つに「子どもの言葉に耳を傾けます」という宣言があります。耳を傾けるとき、是非、「聴く」で接してみてください。話を「聴いて」いただけるなら、子どもたちも、きっと、たくさんお話ししたくなるのではないかと思います。